

【めむろ未来ミーティング日程 7】

令和7年1月10日(金)

13:30~14:30

■参加者 3人

■芽室町 町長、副町長、教育長
農林課長、環境土木課長、環境土木課参事、
魅力創造課参事、政策推進課長

■記録 広報広聴係

■対応・検討が必要な事項

なし

- 1 開会
- 2 町長挨拶
- 3 町からの説明事項
資料1 ゼロカーボン
資料2 新嵐山スカイパークグランドデザイン
- 4 意見交換

【参加者】

資料2 ページ上から5番目の再エネ・省エネへの補助事業については、国からの政策がおりてきてのものか。町単独のものか。

【環境土木課参事】

国や北海道でその補助財源というものを確保していて、それを各自治体で取り組むことによって町に補助金がおりにくるということと、町の予算も使いながらやっていく。主体は町がやり取りをしていく考え。

【参加者】

具体的にはいつからか。

【環境土木課参事】

具体的にいつからいつまでということは示していな

いが、令和7年度から広報やホームページなど、いろいろなもので皆さんにご紹介をして、それから募集をかけていこうと考えている。

【町長】

ゼロカーボンに向けて、資料の1番と2番に書いているが、公共施設などで省エネや再エネの導入を積極的にやっていこうという基本的な考えがある。個人の皆さまにいろいろお願いするとなっても、資料には省エネ対策の一例があるものの、意識だけ植え付けてもというところもあるし、成果が見えないところもある。町としてはこういう省エネルギー対策や再生可能エネルギーの導入で、ここに書かれているようなことを実際に補助事業としてやることで、皆さんに取り組んでいただこうと考えている。例えば、エアコンも性能が新しいものだと電気をあまり使わないので、そういった機種に変えていただくなど、そのきっかけづくりとしてもこの補助事業をやりたいと思っている。それを具体的に何年度に何をやるというところまでは申し上げられないが、町がやる財源に対して国から補助をもらうという仕組みにしていきたい。追々お知らせしていくので、ぜひ活用していただきたい。特に最近の新しいものでは蓄電池なども、昔は機能があまりよくない状況だったが、だいぶ改善されてきているようで、価格も安くなってきていると思う。そういったものも活用していただきたい。

【参加者】

ゼロカーボンをどこまで信じていいのかわからない。世界的な時勢に流されていると思って見ている。新しいiPhoneができたらみんな飛びつくが、それを作るのにも壊すのにも再生するのにエネルギーを使う。その部分はあまり言わないで、購買力だけを求めるゼロカーボンの感じどうなのか、少し疑ってみた方がいいと思う。鵜呑みにはしない方がいい。うちも電気自動車が二台あるし、たまたまフォークリフトのバッテリーをバッテリー式に交換した。それはまさしく室内で使う時に排気ガスの問題とかいろいろな問題があるので、そろそろ替えた方がいいだろうと思ってのこと。急速充電をする時には、だいたい今50キロぐらいの急速

充電ができるようになっているので、基本料金で車は充電できてしまうところがある。今2台あるが、別に環境の良さを考えるよりも、イーロンマスクの先進性に僕は目を向けて買っただけの話で、すごい環境にいいとは思っていない。バッテリーに補助を出すと言っているが、いま固定式のバッテリーを検討している。国産がいいのか、テスラのバッテリーがいいのか、友人が研究して農家でやっている。設置のお金はかかるが、ほぼほぼお金を払わないで使えるそう。そこら辺をもう少しあからさまに表現できて「本当にいいよね」というのを芽室町でやってもらいたい。これは「流されない方がいい」という意見。あとは新嵐山スカイパークことで何点か聞きたい。グランドデザインをモンベルにお願いしているが、モンベルだけでよかったのか。他にも提案をしてもらわなくてよかったのか。

【町長】

流れもあるので、経過を説明させてもらう。まず、モンベルと関係を持った前提というのは、まちなか再生で町の中に、モンベルショップを持ってこられないかというところからスタートしている。それで、先方のトップとお話ができるようになり、そこではけんもほろろというか、駅周辺でショップは無理だということで終わった。ただ、意見交換できたおかげで、町づくりに関わっていただける流れになった。それで、一昨年6月に連携協定を結ばせていただいた。その流れがあった後に、新嵐山の倒産の話があったため、もともとこの新嵐山の再生のことでモンベルが絡んでいたわけではない。だが、新嵐山がそうなったので、スキー場をこれからやってもらえるようなところを紹介してもらえないかをモンベルに問いかけたところ、モンベルで絵を描いていただけることになり、このグランドデザインになった。おっしゃるとおり、他の選択肢もなかったのかと言われたらあったと思うが、今言ったような流れの中からあまりスキー場を再開するときに、どこにでも声をかけるわけにもいかないので、まずもって連携協定を結んだモンベルからスタートしたらこのような結果になった。

【参加者】

モンベルは道内だと2か所か。

【町長】

東川、小清水、留萌、南富良野。今度芽室にも出店したら芽室も加わる。

【参加者】

調査していると思うが、モンベルが来た場合のまちなかへの人の移動など、いろいろなことが書かれているが、東川の町長と東京でディスカッションをさせてもらったときに、かなりのアプローチを町側からして、モンベルはその町の魅力にひかれて来たようだ。今回の場合はそのパターンには少し当てはまりにくい。何かと言うと、少し芽室が下手(したて)。町長が連携協定を結びに行った時も、来てもらうのではなくて、行ったというのが個人的に下手に感じた。上手か上手じゃないかというのは、後々影響しないのか。そういうふうに見ている人がいるということ。

何が聞きたいかと言うと、他の町の店舗があることによって、町にプラスの影響がどれぐらいあって、その資産経過から見て芽室町に開設してもらったときにこれぐらいの金額で、こう想像しているという、数字的なものがあったら教えてほしい。

【町長】

売上等の数字的なものは、まず今のところ全くない。いろいろ効果を聞いてみると、例えば小清水町では、営業所のようなものを町に置くことになるので、町に対して税金が入ってくるとのこと。額はたいしたことなく、年間500万円ぐらいだったと思うが、芽室にできれば、芽室にもそういう事務所をつくってもらい、税の還流をしてもらいたいと思っている。小清水町も悩んでいるのは、まちなかから離れているので、町に対する直接的な商店会等に対する効果に悩んでいる部分はあると思う。ただ、間違いなくそのショップまでは集客できているというところがあるので、あとは工夫次第でいかに、まちなかに持っていか、経済的に環流できるか、その辺を商店会とも話をしなければいけないと思っている。ただショップだけに集まるというのはどうかと思っている。

【参加者】

想像するにショップだけに集まって、なかなかまちなかに環流しないのではないか。しない理由は、商店街の若い人と話しても、魅力ないところにはなかなか足は運ばないということ。町民がどれぐらい運んでいるかといったらなかなか運ばない。正直言って、スーパーもなるべく利便性のいいところを選ぶ。駐車場が大きい、薬局も入っていると、何が入っているかという方向に流れていく。もしくは町の少し東側の人だったら西帯広に行ってしまうとか。それが顕著に表れているのは、鹿追町や清水町から国道沿いの芽室のダイイチに来る人が相当数いるということ。これらと同じようなことが他の町村で起きている。モンベルが公園の近くにできたときに、町中に流入するには、町のブラッシュアップというか、磨き上げをしないと来ないでしょう。

それと、前から言っているのは、日高山脈の向こう側に高速で行くと行きづらい。向こうに行っていたモンベルファンが、芽室に来てくれるのは確実だと思っている。そうであるなら、人を入れ込んだ方がいいと思う。前から言っている高速道路に物産の店舗を組んだけど、物を置いて売るだけではなくて、あそこを入り口として祥栄のインターチェンジからいかに芽室町に入ってもらおうかというアイデアを出さないと仕方ないので、観光物産協会の人にはよく言っている。そこまでの気を回さないとモンベルにはお客さんが入るし、事業所から税金が落ちるにしても、固定資産税が落ちるにしても若干なので、本当に芽室の人にとって良かったのかということについて、議会からも指摘されていると思うが、考えを聞きたい。

【町長】

議会の方も感覚的だが二分しているところがあって、今おっしゃったような商店会も含めて、いかに呼び込むかというところは考えるべきという人もいるし、どちらかといえば事業費や町の負担がどうなっていくのかという観点の方も多いので、そういう意味では分かれている感じがある。今ご指摘いただいたとおり、インターチェンジのこともそうだが、商店会だけではなく、商工関係者も考えていただきたいと思っていて、実は

参事も含めてパーク PFI の説明に行くと、客を取られるのではないかと、マイナスなイメージのことを言っている方がいた。こちらはチャンスとして捉えていて、公園までは人が来ているのだから、いかに引っ張ってくるかということを考えてもらいたい。そこを町が「全部商店街のことだから」と突き放すつもりもない。でも一緒に今のインターのことも含めて考えるところへ持っていきたいと思っている。観点としては本当に僕も全く同感なので、そういうところで工夫していきたいと思っている。あともうちょっと言うと、なかなか難しいと思うが、新嵐山との連携も必要だと思っている。モンベルとの連携協定の中で、例えば健康づくりだとか、そういうものもあって、教室などの事業や行事をやることについても、新嵐山の自然を生かしたフィールドは使ってほしいと思っている。そういったところからうまく連携できたらと思う。芽室町長として、町内の経済循環にも責任を持っていかなければならないと思っている。ただ、他の町もそういう意味では少し苦しんでいる部分がある。南富良野町もまちなかから離れているといえは離れているし、町長とも話すが、正直なところ市街地側に波及させるのは難しいという話は聞いている。

【参加者】

スキーをするが、新嵐山が使えなかったので、南富良野を利用していた。南富良野のモンベルに行く結構買い物している人がいて、数千円から数万円の買い物になる。メモロスキー場は十勝ファミリーが利用するし、需要がある。雪は少なくなってきているが、冬に子どもたちに体験させるのは良いこと。モンベルをうまく活用してほしい。

【町長】

悩ましいのはこれだけ雪がない状況になってきていて、今回もほとんど降雪機でつくったようなスキー場になってしまっていること。5年10年と考えたときに、果たしてどこまでできるのかというのは、非常に懸念している。拠点施設の6番に書いてあるが、通年で来てもらえるような拠点をつかった上で、スキーに加え子どもたちも遊ばせる、夏もキャンプに加え遊ばせるという考えを持っている。もうひとつ書いてあるのは食の部

分で、その拠点施設の中に食の機能もしっかり残したいと思っている。そういうところでなんとか稼いでいきたい。

【参加者】

オープンハウスの100億円の寄付についてどう見ているか。たまたま町議と音更にできる屋内遊戯施設の話になった。なぜ音更なのか、オープンハウスやそらとつながりがあるのかと聞いた。芽室の人は、つながりを持っていないで、つながりのないところにお金を落とすわけがない。あの寄付金は音更町につながらないといけなく、そらさんと音更町商工会長と一緒に会社をやっている。縁を持つか持たないかというのは大事なこと。どんなに有能でも、何をしているかではなく、誰を知っているかだということを痛感した。

【町長】

100億円の話は新嵐山が倒産の状態になってきた時からずっと情報交換をさせていただいていた。はっきり言えないが、たまたま音更町がマスコミにも出て、寄付10億円が決まってしまうが、端的に言うと残りがまだある。その辺のつながりを実は持っていて、オープンハウスと直接ではないが、そらとも情報連携はさせていただいている状況。今後どうなるか分からないが、新嵐山の財源に関してはなんとかできないかと思っているので、徐々に明らかになっていくと思う。僕は「館内で一番目の屋内遊戯施設を」と思っていたが向こうの方が先ようだ。

【参加者】

それは情報をコントロールするのが向こうの方が上手だということ。「屋内遊戯施設が他のところでも動いている。後々の回ってくるお金のことを考えたら、先に名前を出した方がやる気のあるところに見えて良いかもしれない」ということで情報を出した可能性はある。

【町長】

うちもランドデザインで屋内遊戯施設をやるという考えができた段階なので、細かく詰まっていない。そ

こは結果的に遅かったということだと思う。音更町は新嵐山のようなことがなくても、粛々とやっていて、GOが出たということだと思っている。

【参加者】

情報は先に漏らした方がいい場合もある。

【町長】

広尾町も地元の人向けに小さい屋内遊戯施設をやると言っている。

【参加者】

そんなに屋内遊戯施設は有望なのか。

【町長】

ニーズはあると思う。実はモデルにしているところがある。南幌町でつくったもので、人口規模が札幌近郊なので違うが、オープンから20万人ぐらいの人が来ていて、稼いでいるような話も聞く。入館料は町内者と町外者で差をつけているようで、それは町民還元の一つであると思う。そういうことで情報の遅れはあったかもしれないが、これから7年度に計画をしっかりと立てていく。そこで金額やいろいろな考え方をさらに詰めていくことになると思うので、またそういうものができたら、こういった機会でご説明していきたいと思っている。

【参加者】

白馬村を視察したとき、白馬のスキー場再生で実績を挙げている方に、どこが苦労して、どういう効果があって、という話を聞いた。実際に山々を見ながら20m、30mぐらいあるロープのブランコに一日二千人が並んだ。1回乗るのにも結構高い料金がかかる。何が言いたいかというと、冬場で稼げないから夏にどうやって集客するかアイデアを出して、アイデアで稼いだというのがその再生計画。新嵐山も町長が心配しているとおりに、雪が1月いっぱい降らなくて、2月に降ったとしても2月の終わりから3月初めには溶け始める。スキー場で稼ぐのは無理な時代かもしれない。そう考えると、夏場に集客

だけではなくてお金を落としてくれる人を呼ばないと難しい。

【町長】

白馬村のことも、行ってはいないが、情報だけ取っているので参考にしたいと思う。

【参加者】

視察の紹介はできる。地元民がどれぐらい動いているかという、難しい。外から来た人が一生懸命頑張っている。冬はスキー場の民宿になっているような民宿街を全部改良してユースホテルではないが、洒落たステイできる場所にして、昔の外観を壊さないで中だけを変えていて、すごく徹底的にやっている。田舎者では考えられない。都会というか、ないものねだりで田舎チックの方が良いという感じ。話を聞いたらすごく面白い。全部替えるとお金がかかるが、全部を替えなくてもこれだけできるというものはたくさん見られると思う。

【町長】

機会があれば視察したい。

【参加者】

新嵐山のリフトはどうするのか。

【町長】

計画では架け換えも視野に入れているが、前に試算した時に2本換えるとなると8億円ぐらいかかるという想定だった。今の状況を考えると1.5倍の12億円ぐらいかかると思う。現実的に費用対効果等を考えた時に2本換えるというのは少し厳しい。そうすると1本にして、今の第1コースではないところから上げていくとか、あとは夏の利用を考えて、それも加えて複合的機能を入れて採算をとるとか、そういった考え方もある。当面は雪の状況も見なければならぬし、遠軽町のように夏のスキー利用をやっているところもあるので、そういう発想が固まった段階で初めてリフトの話が出てくると考えている。第2リフトは運輸局の指導により、もう現実的に難しい。プレオープンでも皆さん

に迷惑をかけると思う。Cコースから降りてきたらリフトまで長いので、苦情もたくさん来ると思うが、当面1リフトで何とか延命してやっていく考え。

【参加者】

白馬村は高速リフトを使って、夏場はマウンテンバイクを上げている。自転車に乗れない人は4輪付きのバギーのようなもので、傾斜を下るアクティビティをしている。それも運べる高速リフトを使っている。ニュージーランドで見たのも高速リフトを使って夏場の稼働率を上げている。やりたい人は1回乗っていくのに1000円払っても1500円払っても乗る。その夏のアクティビティが絶対楽しくないと価値あるものにならずなかなか人も来ないが、白馬は相当数の人が並んでいる。新嵐山の高さだと白馬とあまり変わらないか、少し長いと思う。そう考えると高速リフトを入れてほしい。あとは、地形の問題で、Cコースに流れていくところを初心者でも行けるようにというのは、造形的に造成をかければクリアできる。今使っていないCコースの上の方が斜面が急で放牧地になっているので、あの辺をゆっくりターンしながら進行していけば1本でもいけるのではないか。以前あった天空カフェのように、非日常であそこにお茶を飲みに行くために、リフトを利用していただくのもありではないか。ぜひやってほしい。

【参加者】

夏場にどれだけ来てもらうかが大事だと思う。新嵐山の頂上からの眺めもいい。高速バスやレンタカーで人が来ている。本州の人にもお金をかけずにアピール出来たらいい。

14時30分終了

